

南日本新聞に掲載されました！ 【令和5年2月14日(火)付】

錦江町 進む高齢化5小と連携

認知症の人が暮らしやすいまちづくりを進める錦江町は、将来の地域の担い手である子どもたちの理解を深める教育に力を入れている。人口約6600人の半数が高齢者で、うち6人に1人が認知症とされる同町。子どもたちが当事者と交流し、接し方を学ぶことで、年を取れば誰もが認知症になる可能性があることを感じてもらう、優しく接する大切さを伝える。

「あなたがたときさ。肥後さ。肥後とこさ」。8日昼、山あいにある大原小学校に明るい笑い声が響いていた。認知症カフェの高齢者と児童が輪になり、リズム良くお手玉を隣の人に渡していく。手と手が触れ合い会話も弾んだ。

全児童13人が、カフェの6人と15分間、かるたやけん玉などで交流した。3年大浦地駆君は「楽しくて、すぐに時間が過ぎた。また来てほしい」と話した。カフェは、町の委託を

わが町フラッシュ

受け、地元のNPO法人「たがやす」が運営する。週1回活動し、今回は児童たちと会えることとあってメンバーもうれしそうだった。卒業生の浜川良子さんは「何十年ぶりに学校に来た。孫みたいなお子とまた一緒に遊べ

認知症教育に注力



てうれしかった」と笑顔を見せた。その後の座談会では「愉快で楽しいことが長生きの秘訣」も

つと遊びたい」などの意見が出た。

町によると、町内の認知症の人は2022年4

月時点で547人を数え、高齢者の6人に1人の割合。要介護認定を受

けていない当事者を含めると、700人以上と推計される。

南隅地区の高齢化は県内でも著しく、20年国勢調査確定値で錦江町は高齢化率46・6%。隣の南大隅町の49・3%に次ぎ2番目に高い。今後も高まる見通しで対策を迫られていた。

県内でも認知症サポートー養成講座などの取り組みは広がっており、各校も独自の学習を進めている。

こうした現状を踏まえ錦江町は21年度、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、普及・啓発に取り組み始めた。小学校の協力も得て、22年度からは町内6校のうち、5校と連携。児童は、若年性認知症の丹野智文さん(48)と仙台市と交流したり、地元グループ「南の星座」

子どもたちとお手玉遊びをする認知症カフェのメンバー。錦江町田代麓の大原小学校

「暮らしやすい町」目指す

町内でも認知症サポートー養成講座などの取り組みは広がっており、各校も独自の学習を進めている。

と強調した。(永井貴士)